

報告書〔4〕 分析結果及びフローシート

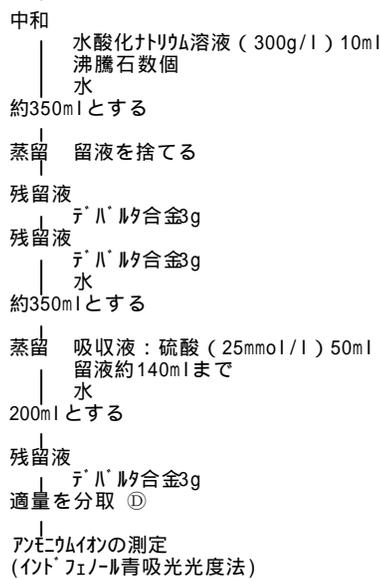
4 全窒素

分析実施機関名	整理番号	*	*	*	国際的な認証の取得	1. ISO 9001-9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025 (G1725) 4. なし
分析主担当者名	*	分析主担当者の経験年数	年	分析主担当者の実績(検体数)	検体	

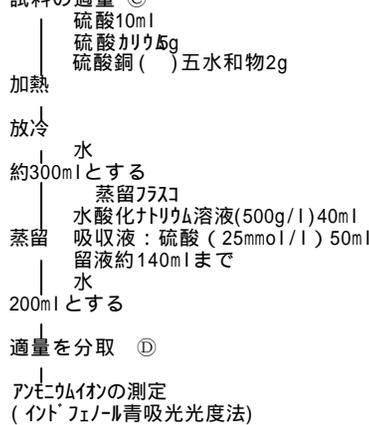
注1) 分析結果 (mg/l)	標準偏差 (mg/l)	測定回数 (回)	注1) 2回以上の測定を行った場合は、平均値を記入する。また、実施要領5(1)の希釈方法に従って調製した分析試料中の濃度を記入する。 なお、一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意してください。	分析開始日	月	日
				分析終了日	月	日

< 総和法 >

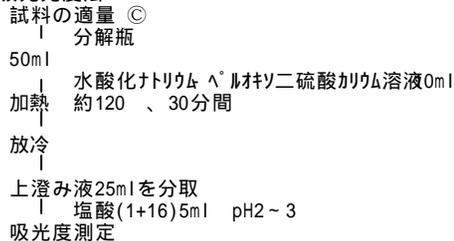
1. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析
「還元蒸留-インドフェノール青吸光度法」
試料の適量 ③



2. アンモニア性窒素及び有機性窒素の分析
「ケルダール法」
試料の適量 ③



< 紫外吸光度法 >



分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点

前処理について	-----
測定方法について	-----

< 分析法等 >

分析法	1. 総和法 2. 紫外吸光度法 3. その他 ()
-----	-----------------------------------

< 総和法 >

「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析」

試料量	ⓑ () ml
留液の分取量	ⓒ () ml
測定波長	ⓓ () nm
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析結果	ⓔ () mg/l 注2)

「アンモニア性窒素及び有機性窒素の分析」

試料量	ⓕ () ml
留液の分取量	ⓖ () ml
測定波長	ⓗ () nm
アンモニア性窒素及び有機性窒素の分析結果	ⓓ () mg/l 注2)

注2) 分析試料中の濃度を示す。

< 紫外吸光度法 >

試料量	ⓓ () ml
分解瓶の種類	ⓚ 1. 四ぶつ化エチレン樹脂製の瓶 2. 耐熱・耐圧ガラス製の瓶 3. その他 ()
測定波長	ⓛ () nm

< 検量線の作成 1 >

検量線	作成点数ⓓ () 範囲ⓔ () ~ ⓕ () 単位 ⓖ 1. µg又はng(注入量) 2. mg/l(濃度) 最高濃度の指示値ⓗ () 空試験値(指示値)ⓓ ()
試料の指示値	指示値ⓔ ()

注3) 総和法の「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素」の結果又は紫外吸光度法の結果を記入する。

< 検量線の作成 2 >

検量線	作成点数ⓓ () 範囲ⓔ () ~ ⓕ () 単位 ⓖ 1. µg又はng(注入量) 2. mg/l(濃度) 最高濃度の指示値ⓗ () 空試験値(指示値)ⓓ ()
試料の指示値	指示値ⓔ ()

注4) 総和法の「アンモニア性窒素及び有機性窒素」の結果を記入する。